



11月15日

聖アルベルト・マグノ司教 教会博士

聖アルベルトは1203年頃ドイツ・ダニューブ河畔のローインゲンに生まれ、1223年ザクセンの福者ヨルダヌスによってドミニコ会に受け入れられた。彼は自らの召命は彼がやさしい心で熱愛している乙女マリアによるものと考えた。間もなく勉学に優秀さを発揮し、自然科学と聖なる学問双方にあまりに広い知識を有していたため、「偉大な人」とか「普遍的博士」とか呼ばれるようになった。パリ大学で二度神学教授をつとめ、彼の最も偉大な生徒聖トマス・アクィナスと共に過ごす誉れを得た。アルベルトは1254年、ドイツ管区長に選ばれ、1260年にはラティスボン司教となり、管区長として、後には、司教として、彼は南部フランスから東プロシアの琥珀海岸まで、またパリからハンガリーまでほとんどヨーロッパ全土にわたって徒歩で旅をし、「げた司教」というニックネームを付けられたほど驚く記録を残したのである。)2年間、使徒の立場を熱心に豊かな実りをもたらして守った後司教職を辞し、全く研究と観想に専念した。彼は愛弟子より数年間生き延び、高齢で、当時問題とされつつあったトマス論文を弁護するため徒歩でヨーロッパを横切り、途中まで行った。

1280年11月15日帰天。

1931年、教皇ピオ11世により教会博士と宣言され、1941年教皇ピオ12世により自然科学系の学生たちの神の前における保護者として選ばれた。

【聖ドミニコ会聖人・福者暦】

1982年、米国ニュージャージー州 サミットドミニコ会ロザリオの聖母修道院発行

1984年、ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 (瀬戸市東長根町) 翻訳

2006年、ドミニコ会岡本哲夫神父(ロザリオ管区)による改定版から